

事業の背景・目的

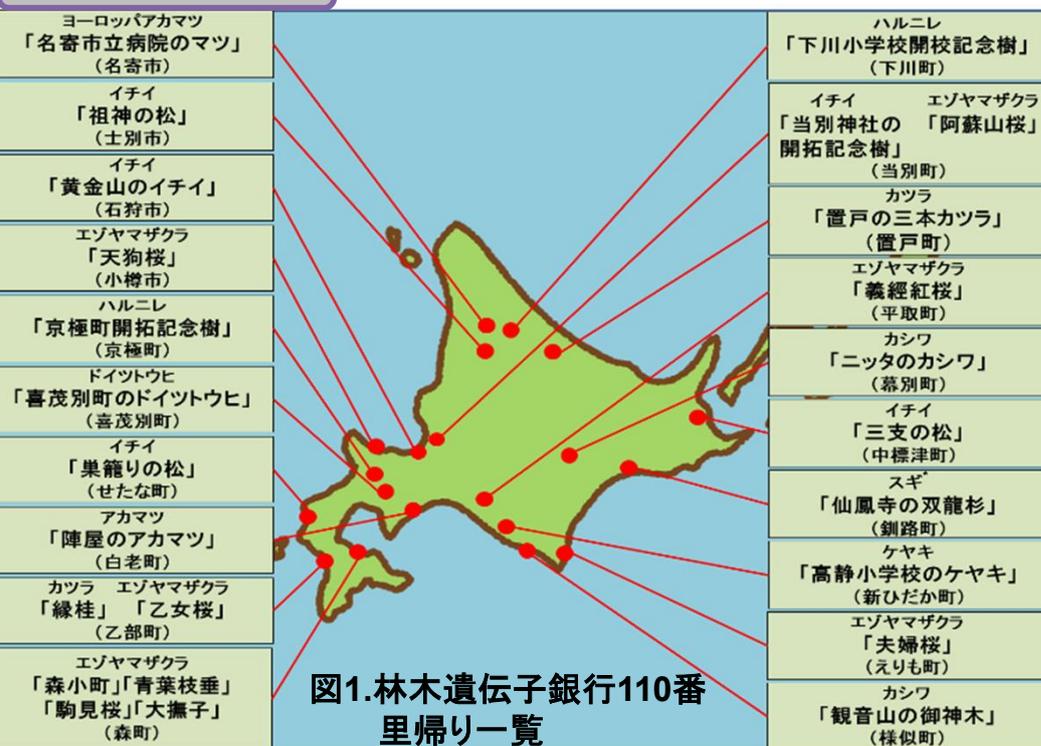
・林木ジーンバンク事業は、新品種の開発等に資することを目的とし、林木育種の技術開発に不可欠な育種素材の供給源の確保と、絶滅に瀕している種等の確保を中心に遺伝資源の探索・収集・増殖・保存を行う林木育種センターの取り組みです。

・林木育種センターでは林木ジーンバンク事業の一環として天然記念物や巨樹・名木等の遺伝子を後世に残すため「林木遺伝子銀行110番」を行っています。

林木遺伝子銀行110番とは

巨樹・名木等は生物学的にも貴重であるとともに、地域のシンボルとして文化的にも重要な遺伝資源です。このような樹木が衰弱している場合に、自治体等からの要請に応じて親木と同じ遺伝子を持ったクローン苗木を増殖して、お返しする「里帰り」を行っています。また、現場でも保存して研究材料として活用します。

事業の内容・成果



平成15年に林木遺伝子銀行110番が発足し、北海道育種場では21年間で25件の里帰りをを行いました(図1)。

令和6年度の取り組みでは、下記2件の里帰りを行いました

・小樽市天狗山展望台のシンボル「天狗桜」(写真1, 2)

・当別神社に植栽されている北海道記念保護樹木「当別神社の開拓記念樹」(写真3, 4)

来年度の里帰りに向けて2件の苗木の養苗をしています。



写真1.天狗桜



写真2.里帰りセレモニー



写真3.当別神社の
開拓記念樹



写真4.宮司による
植栽

今後の展開

林木遺伝子銀行110番は、各地に現存する貴重な遺伝資源を保存するだけでなく、地域・社会に貢献する取り組みでもあります。これまで里帰りをした後継樹たちが大きく成長し、多くの人たちに親しまれることを期待しています。これからも貴重な遺伝資源の増殖・保存に取り組んでいきます。枯損の危機に瀕している名木等がありましたら北海道育種場までご相談ください。